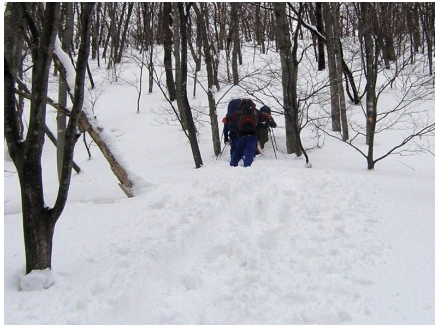


## 猿ヶ城 (途中まで) 山行記録



深雪ラッセル



雪穴でモツ煮



下山：雪の深さが分る

目的地	猿ヶ城	期 日	平成22年2月7日 (日)・曇り、時折降雪
山人	石黒正幸、中野茂、笠原正雄、森山トシ子、五十嵐隆、星光男	特 記	下田山塊、ラッセル大会。

地 点 名	時 刻	記 事
与 板 発	午前 7:30	道の駅「漢学の里」で星氏と合流。2台で遅場集落へ
最 終 除 雪 地 点	9:20 発	県道 183 号、吉ヶ平山荘へと続く道は、遅場集落へ向かう、守門川に掛かる橋のたもとで除雪は終わっていた。集落のどん詰まりに車を駐め、雪の壁を乗り越えて水路に沿う林道を進む。スノーシュー又はカンジキ歩行。俺はスノーシューでヒールを固定して歩く。深雪の時はヒール固定の方が歩き易い。交代しながらラッセル。途中、守門川対岸の斜面上にカモシカを発見する。ジッと動かずこちらを見ている。
斜 面 に 取 り 付 く	9:55	雪に覆われた左の水路を越えて、杉植林地との境目、雑木の斜面を上る。ここでラッセルを交代したときにサングラスを落とした。それに気が付いたのはランチ場だった。少し上り、杉林を斜めに横切るように登高する。
急 登 ラ ッ セ ル	10:20 ころ	杉を抜け出し、高みを目指して登る。雪も深いところでは膝上までもあり、すぐに大汗をかく。更に尾根を目指して頑張る。
休 む	10:45	実生の杉だろうか、大きな木の下で休み、少し食べる。休み終えて進めば、八木鼻・袴腰方面が見える。下りに入ると再び杉が現れ、進路を悩む。列が分かれて、4人が、杉を避けて右方向から廻り込むルートを進む。そちらのほうが良さそうなので斜面を横切りながら同一ルートに合流する。
カ ン ジ キ 故 障		その際、深雪の斜面を強引に進んだとき、I のカンジキの金具が壊れた。斜面状況によっては履き替えようと思ひ、俺の背中にツメカンジキを担いでいた。それと交換した。しかし、ゴム紐の結束方法がインチキだったため、すぐに外れてしまった。もう一度絡めて縛りなおし再スタートする(ここでもかなりの時間を費やしてしまった)。鞍部に下りる。
標 高 点 474 手 前	11:50	どこが山頂なのかよく分らないが、まだまだ先ようだ。立ち止まり協議。反論無くここまでと決定。場所を選定してスコップで穴掘り開始。
乾 杯	12:10	曇りだが、時折雪が降ってくる。しかし、まずまずの条件だ。一昨日から仕込んだ豚モツ煮を大鍋で温める。ふなぐち菊水で酔いが回る。焼酎お湯割りも旨い。バレンタインチョコも登場だ。
下 山 へ	午後 1:35	ランチの終わり頃、やや降雪が強くなって来たが、長くは無かった。登りトレースに沿って下山をするが、時折それを離れて新雪の上を下りる。
サ ン グ ラ ス 回 収	2:15	林道に降りる所でサングラスを探す。雪に埋もれていて発見に手間取ったが、何とか見つけ出すことが出来た。
最 終 除 雪 地 点	2:45	雪の壁を降りて歩行終了。「漢学の里」で星氏と分かれる。

地図上に夏道は無い。しかし、一部ヤブコギはあるものの、尾根に上がれば道はあるらしい。そして、2時間程度で山頂に立てる山のような。しかし、この日の積雪では、なかなか時間が掛かってしまった。山頂への様子も分らなかったし、地図上の距離では半分までも到達していない。

3日前に近隣の加茂市の猿毛岳で45歳男性が道迷いから行方不明になっている。搜索活動が続けられているが、発見されず、この寒さでは絶望的である。このような折、無理は禁物である。ゆっくりと皆とランチタイムを過ごして、楽しい山行であった。

(追記) 11日に、ネットでの呼び掛けに応じて猿毛岳の搜索活動に参加した。集落から見上げることの出来る山だ。無雪期なら1時間もあれば頂に立つことが出来るだろう。彼は何度も登っていると聞いた。安易な気持ちで入山したのではないと思われる。しかし道迷い直後から吹雪いたようだ。他山の石としなければならない。